

2. 全数把握対象感染症患者報告状況

(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾 患 名	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
二類	結核	241	161	153	149	156
三類	細菌性赤痢	1	1			
	腸管出血性大腸菌感染症	7	5	11	10	17
四類	A型肝炎			2	1	3
	オウム病	1				
	重症熱性血小板減少症候群 ¹⁾		2	7	3	8
	チクングニア熱		1			
	つつが虫病	1	1	1	1	2
	デング熱	1		1		1
	日本紅斑熱	1	2	13	6	6
	日本脳炎		1			
	野兔病				1	
	ライム病					1
	類鼻疽		1			
	レジオネラ症	3	3	1	5	11
五類	アメーバ赤痢	2	4	7	5	4
	ウイルス性肝炎(E型、A型を除く)		1	1	1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ³⁾				4	5
	急性脳炎			1	2	3
	クリプトスポリジウム症				1	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4			1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1	1	1	1
	後天性免疫不全症候群	4	4	4	8	6
	ジアルジア症	1			1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ²⁾			1	1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症 ²⁾		4	5	7	4
	水痘(入院例) ³⁾				1	
	梅毒	1	2	3	2	11
	播種性クリプトコックス症 ³⁾				1	
	破傷風	3	4	2		2
	風しん		30	2	1	
	麻しん				1	

¹⁾ 平成25年3月4日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

²⁾ 平成25年4月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

³⁾ 平成26年9月19日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

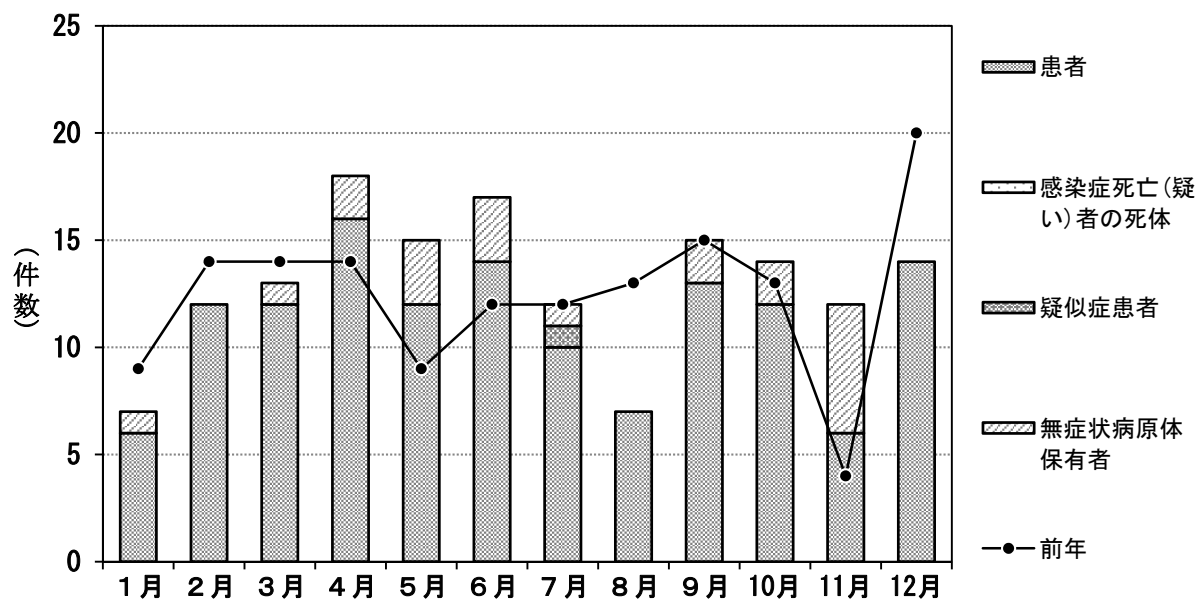
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

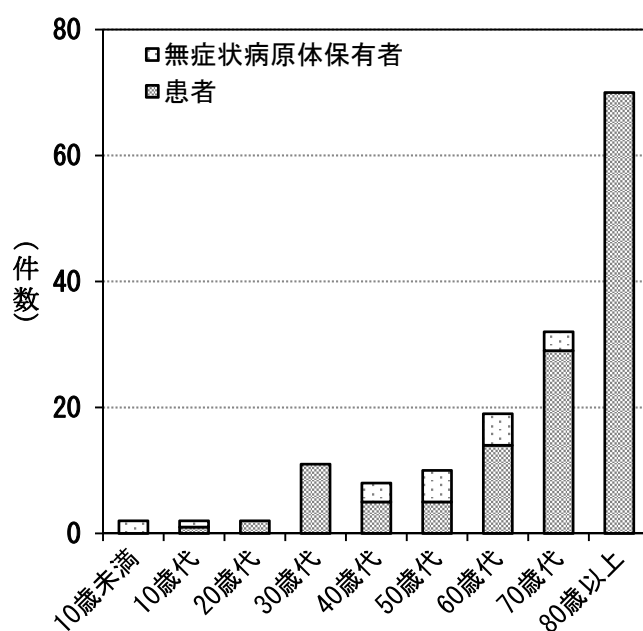
結核の月別届出数



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	0	2	2
10歳代	2	0	2
20歳代	2	0	2
30歳代	4	7	11
40歳代	5	3	8
50歳代	3	7	10
60歳代	11	8	19
70歳代	25	7	32
80歳以上	25	45	70
計	77	79	156

【年齢・症状別届出数】



平成 28 年は 156 件届出られた。過去 5 年間の年間届出数推移をみると、平成 24 年（241 件）から 25 年（161 件）にかけ大きく減少したが、平成 25 年以降は約 150 件前後と、ほぼ横ばい状態で推移している。

月別の届出数では、1 月と 8 月が 7 件とやや少なかったものの、その他の月は 12～18 件で推移し、季節的な特徴は見られなかった。

症状別では、「患者」が 134 件（内訳：肺結核 90 件、その他の結核 40 件、肺結核およびその他の結核 4 件）と最も多く、「疑似症患者」は 1 件、「無症状病原体保有者」は 21 件であった。

届出者を年齢別にみると、60 歳未満（35 件）では各年齢層ともほぼ 10 件以下の届出数であったが、60 歳を越え年齢が高くなるにつれ大きく増加し、60 歳以上が 121 件と全体の約 78%を占めた。

性別では、男性 77 件、女性 79 件とほぼ同数届出られた。

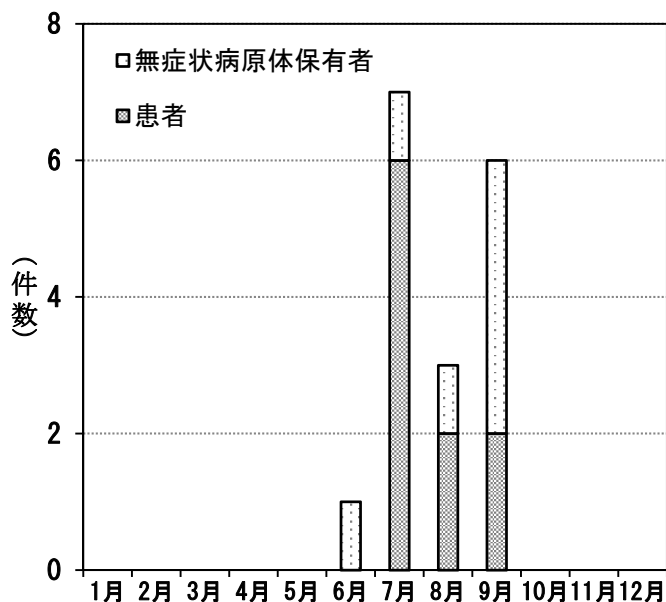
年齢別に症状を比較した場合、60 歳を境として大きく異なった。すなわち 60 歳以上では「患者」及び「疑似症患者」が 111 件（91.7%）と大部分を占めたのに対し、60 歳未満では「無症状病原体保有者」が 11 件、「患者」は 24 件と若年層ほど「無症状病原体保有者」の割合が高かった。

また職業別では、医療・介護などの施設関係者や学生、接客業等、人と接する機会の多い環境にある者も見られたことより、感染拡大防止のため施設関係者等に対し感染予防啓発、施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

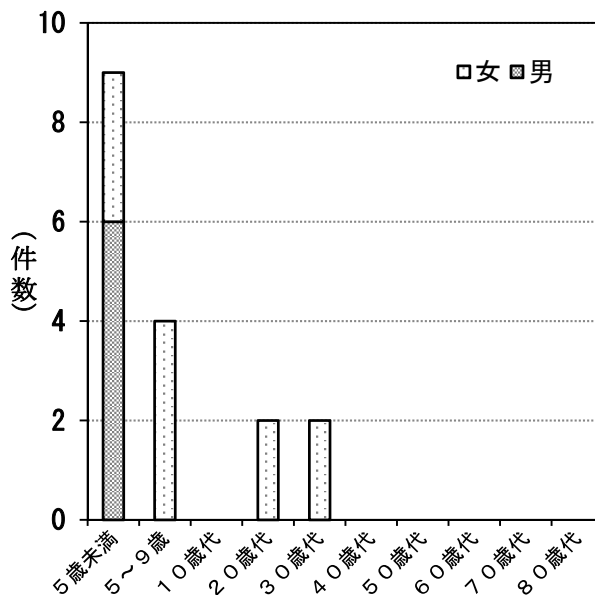
《三類感染症》

② 腸管出血性大腸菌感染症

【 月別・症状別届出数 】



【 年齢・性別届出数 】



腸管出血性大腸菌感染症は、前年（10 件）より多い 17 件が届出られた。県内保育所にて発生した集団感染事例や家族内感染事例の影響が考えられた。過去の年間届出数推移をみると、平成 23 年以前では毎年 13～27 件が報告されていたが、厚生労働省による生食用食肉の規格基準改正（平成 23 年 10 月よ

り)と生食用牛生レバーの提供が禁止(平成24年7月より)されて以降減少し、平成24～27年については年間5～11件と少なく推移した。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出数推移では全例6～9月に届出られ、患者発生は夏から秋に集中した。

年齢別では10歳未満から30歳代まで報告され、幅広い年齢層から報告された前年(10歳未満から60歳代まで)と比べ、本年は若年層から多く報告された。

診断の類型では「患者」が10件、「無症状病原体保有者」7件と「患者」の割合が多く、症状は、多くが腹痛、水様性下痢、血便、発熱、嘔吐など複数の症状を訴え、血清型別では本疾患の多くを占める0157や026の他に0113などの血清型も報告された。報告例の感染経路や感染源は、潜伏期間が2～14日と比較的長いこともあり原因の特定には至らなかったが、全て国内にて感染したと推定された。

診断月	性別	年齢	症 状	型別	推定感染地域
6月	女	30歳代	無症状病原体保有者	0113 (VT2)	国内
7月	男	5歳未満	腹痛、水様性下痢、発熱	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	女	5歳未満	腹痛、水様性下痢、発熱	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	女	5～9歳	腹痛、水様性下痢	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	男	5歳未満	腹痛、水様性下痢、血便	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	女	5歳未満	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	男	5歳未満	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、 発熱	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	女	20歳代	無症状病原体保有者	0157 (VT1、VT2)	国内
8月	男	5歳未満	水様性下痢、血便	0157 (VT1、VT2)	国内
8月	男	5歳未満	無症状病原体保有者	0157 (VT1、VT2)	国内
8月	女	5～9歳	腹痛、水様性下痢、血便	0157 (VT1、VT2)	国内
9月	女	5歳未満	腹痛、水様性下痢、血便	026 (VT1)	国内
9月	男	5歳未満	無症状病原体保有者	026 (VT1)	国内
9月	女	5～9歳	無症状病原体保有者	026 (VT1)	国内
9月	女	5～9歳	無症状病原体保有者	026 (VT1)	国内
9月	女	30歳代	無症状病原体保有者	026 (VT1)	国内
9月	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、発熱	0157 (VT1、VT2)	国内

《四類感染症》

③ A型肝炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	30歳代	全身倦怠感、食欲不振、黄疸	経口感染	国内
8月	男	50歳代	全身倦怠感、発熱、食欲不振、 黄疸、肝機能異常	経口感染	国内
12月	女	60歳代	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、 肝機能異常	不明	国内

A型肝炎は、3件届出られた。過去5年間では前年に1件、前々年に2件届けられている。30～60歳の男性2名、女性1名で、本疾患は潜伏期間が2～7週間と長いため感染経路の特定には至らなかったが、全例県内で感染したと推定された。

④ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	70歳代	発熱、神経症状、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、紫斑	マダニ等からの感染	国内
4月	男	60歳代	発熱、頭痛、筋肉痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内
5月	男	70歳代	発熱、神経症状、下痢、血小板減少、白血球減少、刺し口、肝障害	マダニ等からの感染	国内
5月	女	70歳代	発熱、腹痛、下痢、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
6月	女	80歳代	発熱、腹痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、出血傾向、紫斑、刺し口	マダニ等からの感染	国内
7月	女	80歳代	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少	マダニ等からの感染	国内
8月	女	60歳代	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内
9月	男	80歳代	発熱、筋肉痛、神経症状、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、出血傾向、刺し口	マダニ等からの感染	国内

重症熱性血小板減少症候群は、8件届出られた。平成25年3月4日より四類全数把握対象感染症に指定されて以降、平成25年（2件）、平成26年（7件）、平成27（3件）と毎年報告されている。届出月は4～9月と、マダニの活動時期にあたる春から秋に集中し、患者の年齢及び性別は60歳以上の男女各4名ずつ、感染経路は県内にて農作業などの野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定された。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、原因微生物を保有するダニや昆虫の刺咬による感染症が毎年のように報告されている。重症化例も見られることより、登山、森林作業、農作業など野外作業機会の多い中高年者を中心に、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

⑤ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹	ツツガムシ等からの感染	国内
12月	男	80歳代	発熱、刺し口、発疹	ツツガムシ等からの感染	国内

つつが虫病は、2 件届出られた。平成 24 年より毎年 1 件ずつ届出られている。患者は 60 歳代の女性と 80 歳代の男性で、報告月は患者発生報告が多いとされる冬から春先にあたる 11 月と 12 月、県内にて感染したと推定された。

⑥ デング熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8 月	女	20 歳代	発熱、筋肉痛、関節痛、発疹、血小板減少、白血球減少	蚊・昆虫等からの感染	フィリピン

デング熱は、8 月に 1 件届出られた。患者は 20 歳代の女性で、フィリピンにて滞在中、媒介蚊に刺咬され感染したと推定されている。過去 5 年間では、平成 24 年、平成 26 年と 1 年おきに 1 件ずつ報告され、いずれも海外旅行中に感染したと推定されている。

デングウイルスを媒介するヒトスジシマカは、わが国にも広く分布し、夏季を中心に活発に活動する。平成 26 年には、約 70 年ぶりに東京都を中心として国内流行が発生した。ダニを含め昆虫媒介性疾患は、刺咬されないことが第一の感染予防策であり、広く啓発してゆきたい。

⑦ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	女	70 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
5 月	女	70 歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
5 月	男	80 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
8 月	女	60 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10 月	男	60 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10 月	男	70 歳代	発熱、頭痛、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

日本紅斑熱は、前年（6 件）と同数の 6 件が届出られた。過去 5 年間での年間届出数推移は、1～13 件と年毎による差が大きい。届出月は 4～10 月と、マダニの活動時期にあたる春から秋に集中し、患者は 60 歳以上の男女各 3 名ずつであった。本疾患は、畑や森林における野外作業中での感染が数多く報告されているが、本年届出られた大半の例もレジャーや農作業等の野外作業においてダニに刺咬されたと推定され、重症熱性血小板減少症候群と同様の傾向が見られた。

⑧ ライム病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	女	30 歳代	遊走性紅斑	マダニ等からの感染	スウェーデン

ライム病は、5 月に 30 歳代の女性から 1 件届出られた。過去 5 年間、県内での患者発生は報告されていない。推定感染地は、日本への入国前、スウェーデンにおいてマダニ等に刺咬され感染したと推定された。

⑨ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	60 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
3 月	女	50 歳代	発熱、呼吸困難	水系感染	国内
4 月	男	70 歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
4 月	男	90 歳代	発熱、呼吸困難、腹痛、下痢	水系感染	国内
6 月	男	70 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
7 月	男	70 歳代	発熱	水系感染	国内
8 月	男	80 歳代	発熱	水系感染	国内
9 月	女	70 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
10 月	男	50 歳代	発熱、意識障害、肺炎、肝機能障害、 腎機能障害、嚥下障害、小脳失調	不明	国内
11 月	女	70 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染 塵埃感染	国内
12 月	男	70 歳代	発熱、易転倒性	水系感染	国内

レジオネラ症は、過去 5 年間毎年 1～3 件の報告数で推移していたが、前年は 5 件、本年は 11 件と 2 年続けて増加した。年間を通して発生し、季節的な特徴は見られなかった。性別では男性 8 名、女性 3 名と男性が多く、年齢別では 50 歳以上の中高年層であった。病型は全例「肺炎型」で、感染地域は県内、感染経路は多くが水系感染と推定された。

《五類感染症》

⑩ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	40 歳代	下痢、粘血便、腹痛	異性間性的接触	国内
1 月	男	50 歳代	血便	経口感染	国内
2 月	男	50 歳代	下痢、粘血便、腹痛	異性間性的接触	国内
12 月	男	60 歳代	発熱、肝膿瘍	異性間性的接触	国内

アメーバ赤痢は 4 件届出られた。過去 5 年間では年間 2～7 件届出られている。性別は全員男性、年齢は 40～60 歳代であった。推定感染経路は、異性間性的接触が 3 例、経口感染が 1 例、いずれも国内にて感染したと推定された。

⑪ ウイルス性肝炎（E 型、A 型を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	10 歳代	全身倦怠感、嘔吐、肝機能異常、 黄疸	異性間性的接触	国内

ウイルス性肝炎は、3 月に 1 件届出られた。10 歳代の男性、病型は「B 型肝炎」であった。国内にて感染し、感染経路は性的接触と推定された。過去 5 年間では、平成 25 年以降、毎年「B 型肝炎」が 1 件ずつ届出られている。

⑫ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
6 月	男	30 歳代	腹膜炎	手術部位感染	国内
6 月	女	30 歳代	尿路感染症	以前からの保菌	国外
7 月	男	70 歳代	肺炎、腹膜炎、敗血症	手術部位感染	国内
8 月	男	80 歳代	腸炎	以前からの保菌	国内
8 月	女	70 歳代	尿路感染症	医療器具関連感染	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、平成 26 年 9 月 19 日より五類全数把握対象感染症に指定された。

本年は 5 件届出られ、年齢は 30 歳代から 80 歳代と幅広く、性別は男性 3 名、女性 2 名であった。感染経路は手術部位や医療器具を介しての感染が 3 例、以前からの保菌が 2 例であり、全例国内にて感染したと推定された。

⑬ 急性脳炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	5 歳未満	痙攣、意識障害	飛沫接触 接触感染	国内
6 月	男	20 歳代	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、意識障害、髄液細胞数増加	飛沫感染	国内
7 月	男	80 歳代	頭痛、意識障害、髄液細胞数増加	幼少児感染の再 活性化	国内

急性脳炎は 3 件届出られた。5 歳未満の女性、20 歳代男性、80 歳代男性であった。全例、国内にて感染したと推定され、うち 1 例から「水痘帯状疱疹ウイルス」が検出されている。

⑭ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	50 代	ショック、DIC、軟部組織炎	創傷感染	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、6 月に 1 件届出られた。過去 5 年間では毎年 1～2 件届出られている。50 歳代の女性で、感染経路は創傷感染、国内にて感染したと推定された。

⑮ 後天性免疫不全症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	20 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
8 月	男	10 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
11 月	男	50 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
12 月	男	40 歳代	発熱、ニューモシスティス肺炎	不明	国内
12 月	男	30 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内

後天性免疫不全症候群は6件の届出があり、過去5年間では毎年4～8件届出られている。年齢は10～50歳代、性別はすべて男性、類型は「患者」1件、「無症状病原体保有者」5件であった。推定感染経路は、不明1件を除き同性または異性間での性的接触であり、全例国内にて感染したと推定された。

現在、保健所等を中心に利用者の利便性に配慮した無料検査・相談体制が実施されている。本年、報告された6件のうち、2件は県内保健所で実施された無料検査にて診断、報告された。今後もハイリスク層や発生報告の多い20～40歳代を中心とした幅広い年齢層に対し、より積極的な普及啓発を推進し、HIV感染の早期発見による早期治療と、感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑩ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	女	80歳代	頭痛、発熱、肺炎、菌血症	不明	国内
11月	男	80歳代	肺炎	不明	国内

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、2件届出られた。平成26年より毎年1件ずつ届出られている。患者は80歳代の男女各1名ずつで、国内にて感染したと推定された。

⑪ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	女	50歳代	咳、肺炎	飛沫感染	国内
4月	男	60歳代	意識障害	不明	国内
5月	女	40歳代	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、菌血症	不明	国内
5月	女	60歳代	発熱、意識障害、菌血症	不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症は、4件届出られた。五類全数把握対象感染症に指定された平成25年以降、毎年4～7件届出られている。年齢は40～60歳代の男性1名、女性3名で、国内にて感染したと推定された。

⑫ 梅毒

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	40歳代	梅毒性バラ疹	同性間性的接触	国内
1月	男	40歳代	硬性下疳	異性間性的接触	国内
2月	男	30歳代	硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹	異性間性的接触	国内
3月	女	80歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
5月	女	80歳代	扁平コンジローマ	不明	不明
6月	男	30歳代	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
7月	男	70歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
9月	女	20歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
10月	男	40歳代	梅毒性バラ疹	針等の刺入	国内
11月	男	30歳代	初期硬結	異性間性的接触	国内
12月	男	30歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内

梅毒は、過去 5 年間に於いて毎年 1～3 件の届出数であったが、本年は 11 件と急増した。年齢は 70 歳以上の高齢者も 3 例見られたが、20～40 歳代が 8 例と若年層に多く、不明 3 例を除き多くが国内で感染したと推定されている。現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の増加が大きな問題となっている。HIV と同様に 20～40 歳代を中心とした幅広い年齢層に対し、感染者及びパートナーと共に積極的な感染予防啓発の推進が重要と考えられた。

⑭ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	70 歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害	創傷感染	国内
8 月	男	80 歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	不明	国内

破傷風は、2 件届出られた。前年に届出はなかったが、それ以前は毎年 2～4 件の届出が見られている。年齢は 70～80 歳代の男女各 1 名ずつ、感染経路は創傷感染、国内にて感染したと推定されている。